

Title	スコータイ期碑文に見えるタイ語について : 文法ノート (1)
Sub Title	Grammatical notes on the Thai language in the Sukhothai inscriptions (1)
Author	三上, 直光(Mikami, Naomitsu)
Publisher	慶應義塾大学言語文化研究所
Publication year	1983
Jtitle	慶應義塾大学言語文化研究所紀要 (Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies). No.15 (1983. 12) ,p.213- 235
JaLC DOI	10.14991/005.00000015-0213
Abstract	
Notes	研究ノート
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069467-00000015-0213

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

スコータイ期碑文に見えるタイ語 について ―文法ノート (1)―

三 上 直 光

は じ め に

スコータイ期における文献資料は、タイ語、タイ文字を書記した最古の文献とされるラーマカムヘン王碑文を始めとして、大部分が石刻文の類である。従来、これらの碑文資料は、主に当時の歴史、社会を解明するための第一次資料として用いられてきた¹⁾。勿論、同時に言語学的関心も寄せられたが、それは Bradley, Burnay, Coedès らの研究に代表されるように、文字体系や音価の推定に偏したものであり²⁾、文法の究明を目的とした研究は今のところ余り成果を上げていないように思われる。

本研究ノートは、ラーマカムヘン王碑文（西暦1292年）からスコータイがアユタヤに併合される1438年までに属すると推定される碑文を資料として、そこに現われるタイ語の文法要素について簡略に整理、記述しようとするものである³⁾。しかし、この期の碑文は数が少ない上に、破損が著しく、また記載内容にも偏向が見られるなどの量的、質的制約が認められ⁴⁾、言語資料としては必ずしも十全な価値を具えているわけではない。従って、扱う言語事象もおのずと制限され、碑文資料にのみ依拠して当時の言語を体系的に把握することは極めて困難なものになる。

本稿では、このような碑文の性格を考慮して、不用意な一般化は避け、統一性のある記述よりもむしろあるがままの記述を心掛けた。但し、碑文の分析、解釈は碑文集中の解読文に基づいているので、今後より正確な解読が行なわれた場合には訂正が加えられることがあることを予め断っておきたい。

1. 類別詞

類別詞は他の要素と統合して名詞句を形成するが、各要素の統合関係は埋め込み要素を除けば、概略、次のように定式化される。

名詞句→名詞＋数詞＋類別詞＋指示詞

（但し、数詞が1の場合に限って、類別詞＋数詞（＝1）の順序をとる）

そして、その実現形を代表的な類別詞である อัน を例にして示せば、資料には

①名詞＋数詞＋類別詞＋指示詞

例： สิ่งดีทั้งสามอันนี้ [8/1/24] （この3つの幸福）

②名詞＋数詞＋類別詞

例： นครสองอัน [2/1/9] （2つの都）

③数詞＋類別詞

例： อันหนึ่ง [2/1/9] （ひとつ）

④名詞＋類別詞＋指示詞

例： เขาอันนี้ [8/1/1] （この山）

⑤類別詞＋指示詞

例： อันนี้ [95/1/2] （これ）

のように現われ、この例から類別詞をその構成要素とする名詞句は、数詞か指示詞かいずれか一方を含んでいれば成立するという統語事実が看取される⁵⁾。

以下、資料に見える類別詞を若干掲げてみよう。

資料中、最も一般的に用いられているのは อัน である。 อัน は、次に示すように、動物以外の具体的事物を表わす名詞と連用されるのが原則であるが、稀に抽象概念に対して用いられることもある。

例： กิ่ง [1/1/32] (鐘) พหาร [1/2/31] (本堂)
จารึก [1/3/22] (石 碑) รสดีมี [2/2/50] (御光)
พระมหาธาตุ [3/1/8] (仏舍利) สิ่งดี [8/1/24] (幸福)
ผาเซกหน้า [10/1/37] (顔 拭) ประทีป [95/1/23] (燈火)

ฟูก [106/2/22-23] (布 団) ทอง [106/2/28] (銅鑼)
กลอง [106/2/28] (太 鼓) ขาม [106/2/41] (碗)

.....

อื่น 以外の類別詞としては、同じく事物を表わす名詞に対して กวาง, ลูก, ฝัน, ก้อน, แถว 人に対して คน , 人, 事物を問わず仏教に関する語彙に対して องค์, คน などが用いられている。しかし、用例はいずれも極めて少なく、その意味については論断しがたいので、ここでは連用される名詞を列挙するに止める。

(1) กวาง

例: ดอกไม้งามไมทอง [95/1/18-19] (花)

<参考> ปาก [14/1/17] (鉢) ถ้วย [14/1/18] (碗)

น้ำเตา [14/1/21] (壺) ทอง [14/1/32] (銅鑼)

.....

(2) ลูก

例: พระสรีรรัตนมหาธาตุ [2/2/41-42] (仏舍利)

<参考> กลอง [14/1/32-33] (太鼓) กังสดาล [14/1/33] (銅鑼)

(3) ฝัน

例: จีวร [106/2/38] (僧衣) <参考> ผ้า [14/1/16] (布) ...

(4) ก้อน

例: อิฐ [95/1/28] (煉瓦)

(5) แถว

例: สร้อย [106/2/11] (首飾り)

(6) คน

例: พี่น้อง [1/1/2] (兄弟) ลูกสาว [2/2/2] (娘)

.....

(7) องค์

例: พ่อมหาเถรเจ้า [49/1/7] (大長老)

พระมหาธาตุเจ้า [93/1/7] (仏舍利)

ธรรมกถึก [93/1/14] (説法者)

<参考> มหาเทพภิกขุ [15/4/5-6] (比丘) ……

(8) คน

例：พระมหาเถรเจ้า [93/1/23-24] (大長老)

W 52 [95/1/7] (仏像)

• • • • •

2. 指示詞

指示詞としては、^๒นี้, ^๓นี่, ^๔นั่น, ^๕อัน, ^๖พนั้น などが見えている⁶⁾。

(1) 7)

近称の場面指示を表わし、多く名詞句の限定に用いられるが、単独で場所を指示することもある。さらに、先行もしくは後続の内容を指す文脈指示機能も具えている。

例：①場面指示

ชคาร หน^๒ น^{๒+} หน^๒ง ๒ลาบาทรสถาบ^๒ไว^๒ หน^๒ ง^๒

ทรงฉายภาพเหนือ [1/3/26-27]

(この石板はその名をマナンシーラーバートと言い、すべての人に
見えるようにここに安置してある。)

②文脈指示

พระสรีราชจุลามาณีเป็นเจ้าจึงอธิสสถานว่ากงนี้.....
[2/2/24]

（ブラシーラーチャチュラムニーペンチャオは、そこでこのように
念じた。「……」）

(2) ^๕ นน

既述の語、句などに言及する際に用いられ、主として名詞句を限定する。なん はこの指示機能以外に、特定の要素を提示する機能も併せ持っている。

例：①指示

๕. เหตุการณ์ในเขื่อนนั้นนั้นเป็นใหญ่กว่า , ทก๕ ใน
๕ เมืองนี้ [1/3/6-7]

(その山の精霊はこの国のいかなる精霊よりも強大である。)

②提示

ปีอนพระโคเปนพระพุทนน⁺ในปีวอก [3/1/26-27]

(仏陀が覚者になった年は申年であった。)

(3) อน

น に比べ用例は少ないが、指示、提示の両機能を具えている点では差異はない。อน の場合には、名詞句の限定に用いられることは稀で、ก と結合して動詞句を限定する例が最も多い。

例：①指示

... จึงจกกาลไฟไหมพระธาทองอนสิ้นแล [3/1/52-53]

(火事が仏舎利を全部焼き尽くすだろう。)

ดงริแลไปรรบบปีเคื่อนวนน⁺คือนอนน⁺ถอยแทดกงอน
[3/1/64-65]

(如何にして減少した年、月、日、夜の数え方をそのように正確に知り得たのか。)

②提示

ผ⁺ครสงขยาพิจารณาคอนนคิ⁺ตนพร⁺ญาศ⁺ริส⁺รยพงสมหา
ธ⁺รมม⁺ราช⁺า⁺ธิ⁺ราช⁺แล [3/1/66-67]

(計算して調べた人はプラヤー・シースリヤボンマハータンマラーチャーティラート御自身でした。)

(4) พ

遠称を指示し、名詞句の限定に用いられる。

例：…… เาดกแทลงกาทวิพนมาคาย [3/1/9]

(〔仏舎利は〕はるか彼方のランカー島から持って来たのである。)

3. 人称代名詞

資料には二人称代名詞を見出すことができないので⁸⁾、一人称及び三人称代名詞について述べることにする。

3.1. 一人称

กู, กู, เื่อ, เวา が見えている。กู は単数, กู は複数,
เื่อ, เวา は単数, 複数いずれをも表わす。

(1) ก_๒

ก_๒ は王，高僧など高位の人物の自称に用いられている。

例：①ラーマカムヘン王

เมือออชวฟ_๒ ก_๒ บ_๒ เรวแกฟ_๒ ก_๒ [1/1/10-11]

(私の父の治世に，私は父に仕えた。)

②マハーカンラヤーナ長老

กอบลีหาทกวนนกอຍนานบมีโต [9/1/27]

(私は4，5，6日は生きられるが，長くは生きられない。)

(2) ท_๑

王，信女などにより用いられているが，単独で起こる例はなく，すべてその後に指示語が併置されている。

例：①ラーマカムヘン王

ท_๑ พ_๑ น_๑ ท_๑ อ_๑ ท_๑ ย_๑ ห_๑ า_๑ ค_๑ น [1/1/2]

(我々同胞は5人である。)

②信女

ท_๑ พ_๑ แม_๑ ล_๑ ก_๑ ไ_๑ ค_๑ แม_๑ ค_๑ ร_๑ ว_๑ [95/1/9-10]

(私たち親子は厨婦を得た。)

(3) เฝือ_{๑๐}

ท_๑ と同じく，王，信女などの自称に用いられている。複数の場合，後に指示語を伴うことも，伴わないこともある。

例：①信女（複数）

แ_{๑๐} เฝือ_{๑๐} ณ_{๑๐} วั_{๑๐} เม_{๑๐} ย_{๑๐} ส_{๑๐} ง_{๑๐} ส_{๑๐} ู่_{๑๐} ค_{๑๐} ว_{๑๐} ก_{๑๐} น_{๑๐} มา [95/1/5]

(私たち夫婦が生活を共にし始めてから)

②信女（単数）

เฝือ_๑ ช_๑ี_๑ น_๑า_๑ ส_๑าง_๑ เป_๑น_๑ ส_๑ว_๑น [95/1/31]

(私は土地を買って畑をつくった。)

(4) ไร_๑

単数，複数を問わず最も一般的に用いられている。

例：①リタイ王（複数）

เราคนนี้ [3/1/16] (我々人間)；พระพุททเจ้าเรา
[8/1/3] (我が仏陀)

②ティローカディロク (高僧) (単数)

เมื่อสัการทานมหารัชมราชานุปจึง เอาฉาสฐาฏี
อนนมหากลยาณเถร … คบาเราจึงไ้พรแก่เราคนนี้
[9/1/29-31]

(葬儀が終わると、祖父王マハータンマラーチャーは、マハーカン
ラヤーナ長老が〔着ていた〕大衣を私の肩に掛け、私を祝福してこ
うおっしゃった。)

3.2. 三人称

三人称代名詞としては、ท่าน，ช，เขา，มัน，เขา が用いられ
ている。

(1) ท่าน

王(族)，僧，官吏など高位の人物を指し示すのに使われる場合が最も
多い。

例：①マハーカンラヤーナ長老

ทานมหารัชมราชาสังคจมาคุสพทาน [9/1/28-29]

(マハータンマラーチャー王は大長老の遺体を御覧になりにおいで
た。)

②ซุมเด็ท・บราละชาะเฑะวเฑะ・ชีเชูละลักสะนา・
อักกะละชาะมาเหะซี・เฑะปเฑะละนี・ละกะละตานา太后
ทานจึงปรีศิตาพระสคบไวโนวค้อโสการาม
[93/1/6-7]

(太后はアソカーラーマ寺に仏塔を建立した。)

ท่าน にはまた既述の名詞句を受けず、不特定の人を指示対象とする用
法がある。

例：… เหนเข้าท่านบิครีพนเห็น สันท่านบิครีเกออก
[1/1/27-28]

([ラーマカムヘン王は]他人の米を見ても欲せず、他人の富を見て

も羨むことはなかった。)

(2) ๕

๕ の用例は第49碑文にのみ現われ、王（族）、長老に言及する単数代名詞として用いられている。指示語に後続する場合と単独で用いられる場合とがある。

例：王

นายสั่งการให้พระสาค_๕ที่_๕มาบอกแก่นายอื่นที่_๕อรสั_๕
ว่า_๕พ็หว_๕เจ้า_๕ที่มี_๕พระสาค_๕... [49/1/10-11]

(ナーイ・サンカカーリーは王の命令を受け、ナーイ・インタソーラサックに王が…するよう命じておられることを知らせに来了。)

(3) ๕๑

指示対象を確定できる用例では、๕๑ は複数を表わしている。例えば、[2/2/72] の ๕๑(=ชาวสี่หล) (シーハラ国の人々) や[3/2/44] の ๕๑(=ไพร่ป_๕า_๕า_๕ไ_๕หล_๕ก_๕เจ้า_๕ล_๕ก_๕พ_๕น) (平民、王族) の如くである。

例：シーハラ国の人々

ชาวสี่หล_๕ท_๕ง_๕หล_๕า_๕ย_๕เห_๕น_๕อ_๕ส_๕ส_๕จ_๕ร_๕ร_๕ย_๕ง_๕อ_๕น_๕๕๑_๕จ_๕ิง_๕ช_๕น_๕
ท_๕อ_๕ค_๕น_๕ไ_๕ห_๕ว_๕ค_๕น_๕ท_๕พ_๕ค_๕เบ_๕ญ_๕จ_๕าง_๕ค_๕น_๕อ_๕น_๕พ_๕ก_๕ช_๕ง_๕ค_๕ิน_๕พระ_๕ส_๕รี_๕
ส_๕ร_๕ชา_๕รา_๕ช_๕จุ_๕ล_๕า_๕ม_๕นี้_๕ [2/2/70-71]

(シーハラ国の人々はその奇跡を見て、一斉に平伏しブラジーサターラーチャチュラムニーの足を抱いた。)

(4) มั_๕น

平民，奴隸，犯罪者など地位的に下位に属する者を指示する場合に用いられる。動物を指す例も見えている。

例：①平民

ม_๕น_๕น_๕จ_๕ก_๕ก_๕ล_๕า_๕ว_๕ไ_๕เ_๕ง_๕เจ้า_๕ไ_๕เ_๕ง_๕ญ_๕น_๕บ_๕ไ_๕ว_๕ [1/1/34]

([不満がある者はそれを] 容易に王に述べることができる。)

②奴隸を藏匿した者

ม_๕น_๕ช_๕ี_๕พ_๕น_๕ว_๕น_๕ั_๕ง_๕ก_๕ี_๕ท_๕า_๕น_๕จ_๕ก_๕ท_๕อ_๕ค_๕สิ_๕น_๕ิ_๕ห_๕ม_๕แ_๕ก_๕ม_๕น_๕นี้_๕

[38/1/37-38]

(一日でも超えれば、その者に罰金を科す。)

③象

ช้างสํรายเอางวงมุนนคําลํนำลาง … [2/1/67]

(象は鼻で下を探った。)

(5) ขว 11)

ขว の用例は次の一例のみである。

例 : ไพร่ฝําลกเจ้าลกขุน⁺แผ่แผกแผก⁺วางถนนสวน
คแต่แผ่^ขจึงแต่งความแก้^ขขว^ขวัย^ข [1/1/24-26]

(〔ラーマカムヘン王は〕平民，王族が争いを起こせば，正しく審理を行い，公平に判決を下す。)

4. 前置詞

前置詞は名詞句の前に付いて句を形成し，動詞句の意味を限定すること
をその基本的な機能として有する。資料には次のような前置詞が見えてい
る。

(1) แก

行為や状態の向けられる対象・相手を指定する時に用いられる。

例 : พตายไวแกลูกพี่ตายไวแก่นอง [5/1/18-19]

(父が死ねば〔財産は〕子に譲り，兄が死ねば弟に譲る。)

: นายสอรสก็ขอป่าสง เปนนางแกพญหวัเจ้า

[49/1/25-26]

(ナーイ・ソーラサックは田にする山林を王に請願した。)

: … รูปรานี้แกไพร่พาชาวไททองหลาย [5/1/16-17]

(〔リタイ王は〕すべての臣民を慈しむ。)

: พญนพระรามค้แห่งนันทาเปนนทาว เปนพญาแกไท
ทองหลาย [1/4/11-12]

(ラーマカムヘン王は全タイ族の王であった。)

(2) แต่

แต่ の用法は แก とほぼ同じであるが，その用例は少ない。

例：เราพบมีอาจากทำสรีพอบทรพานครายแเจ้าพรญา

[40/1/8-9]

(私はチャオプレイヤーにはいかなる危害も加えようとは思わない。)

… เป็นชายาแคัศเคจมหาธรรมราชาธิราช [93/1/4-5]

(…はソムデット・マハータンマラーチャーティラートの妻である。)

(3) กัวย

動作の相手，異なる存在の合一化，手段・方法・材料，様態などを示す場合に用いられる。

例：①相互動作の相手を示す。

… คัหวางกัวยขุนจงง [2/1/62]

(〔シーサターは〕クン・チャンと騎象戦をした。)

②異なる存在の合一化。

… อเญชฌมหากัวยมืสงฆราชกัวยเจอรานุเจอรภิกษุสงฆ
ทงงหลาย … [5/3/34-36]

(…はマハーサーミーサンカラートと比丘たちを招いた。)

③材料を示す。

… แดง เรือนผกัวยผ้าแดงผ้าเหลืองผ้ากำผ้าขยวผ้าขาว
… [2/1/89]

(〔シーサターは〕赤，黄，黒，緑，白の布…で家を建てた。)

④様態を示す。

ณูไคไคปรารณกัวยใจสรวาทกงอนนชิจก

ปรารณาไปเกดในเมืองฟา...กไคกาย [3/1/61-63]

(信心を持って望むなら，たとえ天国で生まれかわれるよう望んだとしても，その願いは叶えられるだろう。)

(4) โคย

行為が成立する拠り所を表わす。

例：ทานจกทอคินิใหม่แถมณโคยขนาดกัถกคินิทาน
[38/1/37-38]

(窃盗に関する法律により、その者に罰金を科す。)

(5) แก่

空間及び時間的起点を示す。

例：①空間

... ลูกแก้ว เมือง สุวรรณภูมิ [1/2/30-31]
〔[大長老は]シータマラートから来た。〕

②時間

แต่ ปี อนันตนา พระมหา ราช คุณิ เมื่อ หน้า ไค สาม
พนน เกา ลิบ เกา ปิ จึง จก กสิน สา สนา พระ เปน เจ้า
[3/1/32-34]

(この仏舍利を安置した年から3099年後に仏教は滅びるだろう。)

(6) เท่า, ถึง

いずれも着点を表わすが、เท่าの場合には時間について用いられた例は見出せない。

次に挙げるのは、上述の แก่ と併用された例である。

例：①空間

... ยก ผนัง แต่ สอง แคว มา เท่า สุโข ไท [8/3/15-16]
〔[リタイ王は] ソーンクウェーからスコタイまで溝を造った。〕
คบบ หน ทาง แต่ เมือง สุโข ไท มา ถึง จอม เขานี้ าม
หนก หนา แก่ [8/2/1-5]

(スコタイからこの山頂までの道は、この上なく美しく飾られた。)

②時間

แต่ เมื่อ นั้น แล มา ถึง บค นิ วา ใ ส ชน เร า ค ณ ด ลา จ า ก
ร อ ย ปี แล้ว บค ณ ด ย ปี นี้ ไป แล้ว ง ง แ ค เก า ลิ บ เก า ปี ค า ย
[3/1/16-18]

(その時から現在までの間に我々人間の寿命は百歳から一歳減って九十九歳になった。)

(7) ใน

範圍（空間，時間など）を規定する時に用いられる。ใน を用いて形成された句は，動詞句の意味の限定を主とするが，名詞の限定にも用いられる。

例：... ชุมนในกรลาอุโบสถอนนอยในชเลนา

[9/3/22-23]

(…はチャレーチャーにある布薩堂に集まった。)

： ทานญนิงชีนายอื่นที่ลอรสกมีสรทาในพุทสาคน้ำ

[49/1/3-4]

(ナーイ・インタソーラサックという方は仏教を信奉しておられる。)

： ในปีรกาสกกราชได้ 731 มหาสมณเฎรไปเมื่อเหนือ

[9/2/14-15]

(小暦 731 年酉年，サマナ大長老は北へ行った。)

： คนในเมือง สกโขไท น่มกกทานมกกทรง สลมก
โอยทาน [1/2/8-9]

(スコタイの人々は布施を好み，持戒を好む。)

ใน はまた กลาง (中央) や ไต (下) などの方位詞と併用されることもある。

例：... เอลงฝงในกลาง เมือง ฆรรชชนาไล [1/4/6]

(〔仏舍利を〕シーサッチャナーライの中央に埋めた。)

5. 接統詞

接統詞は連結要素が統語的に対等な関係にあるものと主従の関係にあるものとに大別される。ここでは，前者の例として และ を，後者の例として เมื่อ, ครั้น, เที่ยมแต่, ณ, แม่น, ซื่อ, เพื่อ, อัน を取り上げ考察を加える。

5.1. 等位構造

และ は対等な資格を持つ統語要素を並列する場合に用いられる。

例：①語の接統

ณิไคไหว่นบกทาบุชาพระศรีรัตนมหาธาตุและพระศรี

มหาโพธิ์นี้ว่าใส่... [3/1/12-13]

(この仏舎利と菩提樹を礼拝すれば…)

②句の接続

ทาน... แ่่งให้ใ้ได้แ่มนนแลแ่ผู้เอาเข้าทานมานนสิ
แล [38/1/33-34]

(奴隷とその奴隷を連れ去った者を処罰する。)

... จึงผู้สองมีรบบเอาแลไหว [2/2/68]

(〔シーサターは〕両手を上げ〔仏舎利を〕受け取って拝んだ。)

5.2. 主従構造

主従構造に現われる接続詞のうち、副詞節（時、仮定、譲歩、理由の意味を担う）を導くものと関係節を導くものについて略述する。

(1)時

時の副詞節を導く接続詞としては เมื่อ, ครั้น, เที่ยวมแต่ が用いられている。

① เมื่อ

最も一般的に用いられ、従属節は主節に先行する位置を占めるのが普通である。

例: เมื่อออกจกเ้ามาววย รยงกนนเมื่อไร เมื่อ พ่น เท้า
หววดาน [1/2/17-18]

(〔スコタイの人々は〕町に戻る時には、アランヤジクから広場まで行列する。)

: เมื่อ แล้วออกพรษาจึงกท่ามหาทาน [5/3/8-9]

(〔リタイ王は〕雨安居が明けると、大布施を行った。)

② ครั้น

文頭に置いて、従属節の行為の成立を前提として主節の行為が同時的に成立することを表わす。

例: คณนอ ทิศ ดาน กัณ นชิ ไบนิง แหง ... จึง ชิน เป็น ใบ ชว
งาม หนก กหนา แก กั [2/1/55-56]

(〔シーサターが〕 そのように祈願すると、一葉の枯葉がこの上な

: คนนี้รูวาคโมยจริง เอาจุ้งโต้แดเอาคโมยหนีอีกของ
... [38/1/42]

③ เติบมเต'

^๔P^๕ เพออ ^๖ฝัอ้ายตาบจาก ^๗เพออตขมแหม่งูง เลก
[1/1/2-3]

(2) 假定

ငံ, မြေ နどが用いられる¹²⁾。従属節は常に主節の前に現われ、節尾に語気詞 ၍ ချ် を伴うこともある。

① ②

ᐃ は単独で用いられることも、ᐃᐅᐅ や ᐃᐅᐅ のように句の形式で用いられることもある。

例: ผู้ซื้อขอคืนเงินจากไปแลได้ตัวคืนเงินผู้ซื้อในสัปดาห์หน้าได้
ให้แก่ผู้ขายขอคืนเงินคืน (38/2/1-2)

(盗みに手を貸し盗品を分け合った場合には、その共犯者には褒賞を与えない。)

๖. นิว่า เกิดเป็น...บุญมโศกเสวยสมบัติ [8/1/11-12]

(〔人間として〕生まれるなら、当然幸福を享受できる。)

๖. ใครบ้าง ^๖ลูก ^๗เจ้า ^๘ลูก ^๙ขุน ^{๑๐}ย่น ^{๑๑}ดล ^{๑๒}ผด ^{๑๓}ผก ^{๑๔}แส ^{๑๕}กว่า ^{๑๖}าง ^{๑๗}กน ^{๑๘}น
ส่วน ^{๑๙}ค ^{๒๐}แท ^{๒๑}แล ^{๒๒} [1/1/24-26]

(〔ラーマカムヘン王は〕平民、王族が争いを起こせば、正しく審理する。)

② แม่น

แมน も ฌี と殆んど同じに用いられる。

例 : แมนยู มีสัณฐานควยโคโมยโสท่านอ้งบ้งคักบี้เมื่อหน้า [38/2/6]

(もし盗人と結託していれば、さらに重い刑を科す。)

(3) 譲歩

ข้อ, แม่น がこれに該当する。従属節は主節に先行し、従属節の末尾に กี้ を伴う場合もある。

① ข้อ

例: ข้อ โศกขาเล็กขาเลื่อหววพุงหววรบกับข้าบตี
[5/1/21-22]

(〔リタイ王は〕敵の兵を捕えても、殺したり殴ったりしない。)

② แม่น

แม่น は假定節だけでなく譲歩節を導く接続詞としても用いられる。

例: แม่นผู้ใดผู้หนึ่งหนีหอกดาบทราบเครื่องเหล็กใหญ่โต
ให้เอามันจนได้แล้ไปถวายแก่ท่าน [38/2/35-36]

(恐喝した者が槍、刀、大きな鉄具を持って追いかけて来ても、これを捕えて地方の長に引き渡さなければならない。)

また, แม่น と ข้อ を併置した例も見える。

例: แม่นชี้ไม้กึง กี้แม่นชี้กิ่งพระสรินหาโพธิ์ กี้แม่นชี้...
ส่เคจพระมหาเถรเปนเจ้าเอามาปลูกเหนือดิน...
[2/1/53-54]

(照葉木であれ、菩提樹の枝であれ、ソムデット・プラマハーテラベンチャオは持って来て土に植えた。)

(4) 理由

理由の副詞節は เพื่อ によって導かれ、常に主節の後に位置する。

例: พักใจก่อน ช้ ก ช้พระรามค้แหง เพื่ออ ก พัง
ช้างชนสามชน [1/1/9/10]

(父は私がクン・サムチョンの象を倒したので、私にプララーマカムヘーンの称号を与えた。)

(5) 関係節

関係節は อัน によって導かれ、先行する名詞句（先行詞）の意味を限

定する。資料では、先行詞は関係節内の意味上の主語、目的語、限定語などに相当している。

例：①主語

ท่านจึงอัญเชิญพระมหาเถรเจ้าคนหนึ่งอันเป็นสี่สยแห่ง
พระมหาพุทธสาคร [93/1/24-25]

(太后は、プラマハーブッタサーコンの弟子に当たる大長老をひとり招いた。)

②目的語

...รบบออิกรณอนนทานทงโสงหากโสนนณแลว แล
[9/3/23]

(〔僧侶たちは〕二人の起こした論争を鎮めた。)

③限定語

...เอาทงพิชพระศรีมหาโพธิอนนพระพุทเจ้าเรา
เสกจอยุโศคันแลนจณพลญนมารราชิราชไคปราชแก
สเรพพชญเคญญานเป็นพระพุทมาปลุกเปื่องหลง
พระมหาธาคุนิ [3/1/9-12]

(〔リタイ王は〕仏陀がその樹の下に座り、魔王の軍勢を降して全知者となられた菩提樹の種をこの大仏塔の後方に植えた。)

เมื่อปีอนนพรญามหาธรรมราชกัพระธาคุนิชนคนถอย
จากรอยป็นนั้ไ้กรอยสามสิบ เกาปีแล้ [3/1/19-21]

(プレイヤー・マハータンマラートがこの大仏塔を建てた年の139年前には、人間の寿命は既に百歳を割っていた。)

6. 否定詞

否定詞としては、บ, มิ, บมิ, ไม่, ไป, ไข่ が用いられている¹³⁾。これらについて詳細に論じることは難しいが、ただ現象として指摘できるのは、前三者の頻度が他に比べて高いこと、ไข่ のみが他と統語的環境を異にすること、ไ้ 是 มิ で否定される場合が圧倒的に多いことなどである。

以下、各否定詞の用例を挙げる。

(1) บ

最も頻繁に用いられ、動詞句の前に置かれる。

例： ผู้ให้บผู้กผู้พลผู้กผู้กในเขาอนนบผู้คมบผู้เกรง
ผู้เมองนหาย [1/3/9-10]

(拝み方が悪く供物が正しくなければ、その山の精霊は保護してくれず、この国は滅んでしまう。)

(2) มี

บ と同じく動詞句に前置される。

例： พชนกดางหาวมีสุเา... [2/1/30]

(ポークン・クラーンハーオは「スコータイに」入ろうとはしなかった。)

： อนุวางชิกกทรงผาจิพรหามีใคเลย [3/1/42]
(僧衣を着る僧侶はいなくなるだろう。)

： แคอนนเรืองกทำบชามหาสงฆราชกกนบบกแลมี
ถวน [5/3/20-22]

(マハーサンカラートへの供物だけでも数え切れない。)

(3) บมี

上述の บ と มี の連接形式であるが、意味は否定を表わす。

例： ผู้ใคกทำบชอบควยธรมมคงอนนชุนนนบมีในเิง
เิงนานเลย [3/2/46-47]

(いかなる治者も仏法に違う行いをする者は長くその地位を保つことはない。)

： ...ใบยทานบมีชาคสกกวนน [2/1/44]

(〔シーサターは〕一日も欠かさず布施を行った。)

(4) ใ

ใ は他の否定詞と異なり、名詞句から成る述語の前に置かれたり、副詞 แค と連用されたりする。後者の場合には、後に ใง を伴い、全体として「単に…だけでなく…も又」という意味を表述する。

例： ①述語が名詞句の場合

พระมหาธาตุคอนนินโธธาตุนนสามาน [3/1/8-9]

(この仏舎利は普通の仏舎利ではない。)

②副詞 แต่ と連用される場合

ໃຫ້ແຕ່ສ່ຳເຈົ້າພຣະຣາຊເທວີສ້າງອໂສກຣາມອນັດຍວນີ
ທັງທັກຣິນາຣາມ ເສັດຈແມ່ອຸ່ຍຸ່ນຮັກສ້າງແກ່ມ່າວນັ້ນຣັດຕິເຈຣ
[93/1/27-29]

(ソムデット・プララーチャターウィーは、このアソーカーラーマ
を建てただけでなく、ワナラタナ大長老のためにタクシナーラーマ
も建てた。)

以上、スコタイ期碑文に見えるタイ語について、文法的観点から大雑
把な記述を試みたが、資料的制約あるいは整理不十分のため不備な点が多
く残った。今後、本稿では一切言及しなかった同時代の他の文献や方言の
研究なども援用しながらスコタイ期のタイ語の性格を明らかにしていき
たい。

註

1) 碑文研究資料を含むスコタイ史研究資料については、吉川（1980）に詳し
い。

2) 例えば、

Bradley, C. B.

1913 “The Proximate Source of the Siamese Alphabet” The Journal
of the Siam Society (JSS) 10. 1, 1-13.

Burnay, J. and Coedès, G.

1927-1928 “The Origins of the Sukhodaya Script” JSS 21. 2, 87-102.

“Note sur les tons et les initiales du vieux siamois à l’époque
de sukhodaya” id., 103-117.

“ ๓๑ et ๓๒ et leur origine” id., 119-126.

最近の研究としては、

Suwattee, Duangduen and Kullavanijaya, Pranee

1976 “A Study of ๓๑, ๓๒, ๓๓ and ๓๔ ” Tai Linguistics in
Honor of Fang-Kuei Li, 214-224. Chulalongkorn University
Press, Bangkok.

กำธร สติรกุล

1983 ปลายสื่อไทย 700ปี

องค์การคาของคุรุสภา

นันทนา กานวิวัฒน์

1982 วรรณการอักษรไทย

สถาบันไทยคดีศึกษา มหาวิทยาลัย

ธรรมศาสตร์

などが挙げられる。

タイ人によるタイ語の史的研究については、次の論文に紹介がある。

ปราณี กุลละวณิชย์

1982 "การศึกษาภาษาไทยในแง่ภาษาเชิง

ประวัติ" ศาสตร์แห่งภาษา 2, 55-

62. ภาควิชาภาษาศาสตร์ คณะ

อักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

- 3) タイ国内で発見された碑文は一連の登録番号が付され、解説文とともに碑文集（ประชุมศิลาจารึก）に収録されている。本稿では次の碑文（登録番号で示す）を分析の対象とした。

碑文集第1集：1, 2, 3, 5, 7, 8, 9, 10, 11

第3集：38, 40, 45, 46, 49

第4集：40, 93, 95, 102, 106

なお、第1集に収録されている13, 14, 15の各碑文は1438年以降に属するが、参考資料として用いた。

本稿でのタイ語の表記に関しては、用例はすべて碑文集中のคำอ่าน（碑文の表記通りに現代語の対応する文字を当てたもの）を用いたが、見出し語や

文法要素の記述に入る前に、まず文の構造について触れるべきであるが、現代語と基本的に変わるところがないのでここでは省略する。これについては別の機会に論じるつもりである。

- 232 —

ชวนพิศ อัฐรัตน์

- 1975 การใช้คำและสำนวนในสมัยสุโขทัย
วิทยานิพนธ์ปริญามหาบัณฑิต แผนกวิชา
ภาษาไทย บัณฑิตวิทยาลัย จุฬาลงกรณ์
มหาวิทยาลัย

พิทุร มลิวัลย์

- 1980 มรดกพอขุนรามคำแหงวรรณกรรมเรื่อง
แรกของไทย
มหาวิทยาลัยรามคำแหง

กองหอสมุดแห่งชาติ กรมศิลปากร

- 1980 ศิลาจารึกสุโขทัยหลักที่ 2 (จารึกวัด
ศรีชุม) ฉบับผลการสัมมนา

สำนักนายกรัฐมนตรี

- 1978 ประชุมศิลาจารึก ภาคที่ 1
1965 ประชุมศิลาจารึก ภาคที่ 3
1970 ประชุมศิลาจารึก ภาคที่ 4

Bradley, C. B.

1909 "The Oldest Known Writing in Siamese" JSS 6. 1, 5-64.

Coedès, George

1923 "Nouvelles Notes Critiques sur l'Inscription de Rāma Khamheng"
JSS 17. 3, 113-120.

Griswold, A. B. & Prasert 𑂔 Nagara

1968 "A Declaration of Independence and its Consequences : Epigraphic and Historical Studies, No. 1" JSS 56. 2, 207-249.

1969 "The Asokārāma Inscription of 1399 A. D. : Epigraphic and Historical Studies, No. 2" JSS 57. 1, 29-56.

1969 "The Pact between Sukhodaya and Nān : Epigraphic and Historical Studies, No. 3" JSS 57. 1, 57-107.

1969 "A Law Promulgated by the King of Ayudhyā in 1397 A. D. : Epigraphic and Historical Studies, No. 4" JSS 57. 1, 109-148.

1970 "A Pact between Uncle and Nephew : Epigraphic and Historical Studies, No. 5" JSS 58. 1, 89-113.

1971 "The Inscription of Vat Trābān Jān Phōak (Face I, 1380 A. D. ; Face II, 14th century, date uncertain) : Epigraphic and Historical Studies, No. 7" JSS 59. 1, 157-188.

1971 "The Inscription of Vāt Jān Lòm (1384 A. D.) : Epigraphic and Historical Studies, No. 8" JSS 59. 1, 189-208.

1972 "King Lōdaiya of Sukhodaya and his Contemporaries : Epigraphic and Historical Studies, No. 10" JSS 60. 1, 21-152.

1973 "The Epigraphy of Mahādharmarājā I of Sukhodaya : Epigraphic and Historical Studies, No. 11, Part I" JSS 61. 1, 71-179.

1973 "The Epigraphy of Mahādharmarājā I of Sukhodaya : Epigraphic and Historical Studies, No. 11, Part II" JSS 61. 2, 91-128.

1974 "Inscription 9 : Epigraphic and Historical Studies, No. 12" JSS 62. 1, 89-121.

1974 "Inscription of the Śiva of Kāmbèn Bejra : Epigraphic and Historical Studies, No. 14" JSS 62. 2, 223-238.

1975 "The Inscription of Vāt Khemā : Epigraphic and Historical Studies, No. 15" JSS 63. 1, 127-142.

1975 "The Inscription of Vāt Braḥ Stec, near Sukhodaya : Epigraphic and Historical Studies, No. 16" JSS 63. 1, 143-160.

1976 "The Inscription of King Rāma Gaṃhèn of Sukhodaya (1292 A. D.) : Epigraphic and Historical Studies, No. 9" Collected Articles

in Memory of H. R. H. Prince Wan Waithayakorn, Kromamun
Naradiph Bongsprabandh, 177-244.

1979 "An Inscription from Vāt Hin Tāñ, Sukhodaya : Epigraphic and
Historical Studies, No. 22" JSS 67. 1, 68-73.

Ishii, Yoneo, Akagi, Osamu and Endo, Noriko

1977 A Glossarial Index of the Sukhothai Inscriptions. Shoukadoh Publi-
shing, Kyoto.

石井米雄

1975 上座部仏教の政治社会学 創文社

吉川利治

1980 「スコータイ王朝の王統に関する新しい見解について」
東南アジア—歴史と文化—No. 9, 80-102.